

資料 (3) 「問い」に基づく「読み」の段階

< 全体の構成・展開をつかみ、学習課題を絞り込む >

全体の構想・展開の把握

学習課題の焦点化

この段階で、生徒の中には、「筆者の述べ方」に気づく者が増えてきました。例えば、「最初に金星の話からはじまり、金星大気の話となり、金星と地球の比較、そして、最後に地球の環境問題という展開になっていること」、「『わたしたち』という言葉が二度使われているが、それは読者にとって『身近に感じ』させるためのもので、12 段落へとつなげているということ」、「わかりやすい表現・例があげてあることとして、だれもが想像しやすい農家の温室をあげて温室効果を説明している」といったものです。

下記の資料は、そうした生徒の書き込みの一部です。

生徒の感想や疑問、題名からの内容の想像で出た意見をまとめると、下記の4つの学習課題が出てきました。

- 金星大気の教えるものとは何なのか。
- 金星大気の教えるもので筆者は何が言いたいのか。
- 私たちは地球人としてどうしたらいいの。何をすべきか。
- 地球の環境に対してみんなはどう考えているか。

最初の二つの学習課題は、最初に私が(4)の段階でここまで読んでほしいと思っていたものにせまる学習課題ですが、実は、この学習課題については(3)の「問い」に基づく「読み」の段階で生徒が気づいたことを発表していく中で解決されていきました。この4つの課題は大判用紙に書いて、授業の時は掲示し、生徒への意識付けを行いました。

資料：生徒用ワークシート2 (最初のワークシート1に生徒が授業での意見や自分の気づきを書き込んだもの)

